

■(大坂屋源介)林孚一
はやしふいち
ゴロブニン拿捕 1811＝

薬種商林家8代当主で中興の祖となり、隠居すると尊攘運動支援、維新後は苦勞のなか倉敷発展の基礎。

備前国児島郡木目村で、石井傳藏義貞の三男に生まれる。名は源介、幼名竹三郎。

水野忠成老中 1818＝ 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1820＝ 9歳：

シボムト鳴滝塾 1824＝13歳： 備中倉敷村の新禄・古禄騒動が江戸公事となる。

日本外史・ ・ 1827＝16歳： 6代大坂屋源介の三女佐野恵が7代当主になるも、

シボムト事件・ 1828＝17歳： 夭折したため、林家の養子となり、

シボムト追放・ 1829＝18歳：

富籤流行・ ・ 1830＝19歳： この年、大規模な塩田開発に着手した児島郡味野村の野崎武左衛門とも交友。***大坂屋源介易安を襲名して、8代当王になる。**

高島砲術・ ・ 1834＝23歳： 倉敷代官所内に{明倫館}開館。

大塩平八郎乱 1837＝26歳：

適塾ホヰン・ 1838＝27歳： この年、大坂で適塾を始めた岡山足守出身の緒方洪庵とも親交。長男懷徳が誕生。

業業のかたわら書籍の出版販売を兼ね、和漢書「皇国千字文」「孫子活説」「天文歌」など十数種類に及び、中国地方全域にわたって、本業より繁盛するようになっただけでなく、多くの一流人と出会う契機になり、

この間、倉敷の歌人小野務の門人となり、和歌をよく詠むとともに、多くの書幅も遺す。

阿部正弘首座 1845＝34歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝36歳：

影響を受けた山田方谷の「量入為出」論に基づく家政改革を行い、「家訓」も整備、

国定忠治磔・ 1850＝39歳： 次男伴臣が誕生。

ペリー来航・ 1853＝42歳：

松下村塾・ ・ 1856＝45歳：

桜田門外変・ 1860＝49歳： ***家督を長男の(源助)懷徳に譲り、隠居し、孚一と称し、梧陰と号する。**

生麦事件・ ・ 1862＝51歳： 筑前の宗像大社に参詣した国学者鈴木篤胤が倉敷に滞在した際、次男伴臣とともに入門、新築した店舗住宅で宗像神の祭祀を举行。帰京する鈴木重胤に従い京坂に滞在、
8月18日政変 1863＝52歳： 前年、帰省した際に来訪してくれた緒方洪庵が死去。重胤とともに、内侍所に詣で、紫宸殿を拝するなど、以後、尊王思想によって、密かに、維新の志士たちを支援。

禁門の変・ ・ 1864＝53歳： 野崎武左衛門が死去。禁門の変で敗れ自害した真木和泉の遺書を毛利敬親に届ける大澤逸平を自宅に匿い、倉敷の大橋家の女婿敬之助を長州に紹介、敬之助らが倉敷下津井屋を襲撃する事件を起こすが無罪。

薩摩藩士密航 1865＝54歳： この年まで3年間の「春秋日記」。**9代当主懷徳の長男蘇太郎(のちの11代当主甫三)誕生直後に、生来病弱だった懷徳が死去したため、次男に命じて家督を継がせ、10代当主林(源十郎)伴臣となる。**

薩長同盟・ ・ 1866＝55歳： 敬之助改め立石孫一郎らが、長州第二奇兵隊の脱藩兵を率いて、倉敷代官所、浅尾陣屋を襲撃。

明治維新・ ・ 1868＝57歳： 備前藩の役人が村民を咎めること酷烈だったため、自ら上京して太政官に出訴し、備中、美作、備後の旧天領を管轄する倉敷県が置かれ、伊勢氏華知事の相談役となり、

初の日刊新聞 1870＝59歳： 庄屋助勤。発起人となり、***途絶えていた義倉(飢饉のための備蓄倉庫)を再興するなど、地域のためにも活動するが、**

廃藩置県・ ・ 1871＝60歳： 庄屋助勤。倉敷県は廃止され、深津県に統合され、

明治6年政変 1873＝62歳： この年まで7年間の「二番春秋日記」。第一、二大区戸長、

佐賀の乱・ ・ 1874＝63歳： 小田県の区長、勸業掛、学区取締り。**林家の番頭による事業の失敗と、出版が洋書に転換して、和漢書は紙くず同然となったことから困窮、家財一切を売り立て、家屋敷は抵当に入ってしまう。以後、質素な生活をしながら、次男伴臣や三男醇平が再興に奔走するなか、**

三つの反乱・ 1876＝65歳： 北条県、岡山県に合併。岡山県庁に警察局設置。

西南戦争・ ・ 1877＝66歳： **創業した菓子店に{橘香堂}の名をつけ、発売した菓子に“むらすゝめ”と命名、倉敷銘菓となって行く。**

大久保暗殺・ 1878＝67歳： **郡制でできた窪屋郡の初代郡長に就任し、民生安定に尽力して、**

明治14年政変 1881＝70歳：

岩倉具視没・ 1883＝72歳： ***高齢により辞任。**

秩父事件・ ・ 1884＝73歳： **政府から国事尽捧の功により金員を賜って、**

内閣発足・ ・ 1885＝74歳： 水戸藩の儒学者青山延寿(山川均の妻の菊栄の祖父)全国行脚の途次、来訪。

帝国憲法発布 1889＝78歳： 孫の甫三が山川均の姉浦と結婚、

帝国議会始・ 1890＝79歳： 甫三の長男彪太郎誕生(のち第12代当主林源十郎)。

大本教・ ・ 1892＝81歳： **没した。維新まもなくからつけ始めた22年にわたる「梧陰居日記」が遺された。**

孫の甫三が大坂屋源十郎を襲名し、11代当主となる。翌年発刊の岡山県の小学校用の地理・歴史読本には、肖像画とともに、功績が記され、5年後には、2代目野崎武左衛門の手配で、阿智神社境内に、近衛篤麿、三島中洲撰の篆額で、「梧陰林翁旌徳碑」が建立される。

太田健一「林源十郎商店物語」、